

西高の歴史について



小山 曙美さん
〈9回生・15代校長〉
1957年3月卒業

今いちど西高校歌って

長崎西と創立時を同じくする長崎東は、旧制長崎高女の校舎を引き継ぎ、校歌は東高関係者に依頼し、1年後の創立記念日に発表されました。

それに対し、長崎西は原爆で焼失した旧制瓊浦中の跡地に校舎を建設することが急務で、全校生徒が一つの校舎で学ぶことができたのは、昭和25年9月からでした。したがって、西高の校歌制定の動きは、この頃から始まったと言えます。

そこで、西高の校歌制定の経緯について、別表を参考にしながら、私なりにいくつか考察してみました。

《I》



なぜ、北海道大学教授に作詞を依頼したのか？

初代校長小谷巨三郎先生の「小谷手帳」によると、最初の校歌制定委員会が昭和25年12月に設置され、この会合において、昭和25年度の1年間だけ西高に在職された門前眞一先生が、作詞者に風巻景次郎教授を推薦されたのではないか。

両者の接点は、①共に『源氏物語』を中心に研究された国文学者で、学会で同席されるなど知己の関係にあったと推測される。②風巻教授は東京帝大・文・国文学科卒業。一方、依頼されたと推測される門前先生は京都帝大・文・国文学科卒業で、風巻教授の2歳下という同じ世代。

風巻教授は卒業後、大阪府立女専などを経て、戦後、北海道大学国文学科教授として約10年在職。門前先生は卒業後に奈良女高師などを経て、熊本の高五教授を17年余り。戦後、現在の信愛女学院校長のあと、長崎に新設の県立女短大で国文学の教授となる予定が英文科設置に変更となり、困った

県が1年間だけ西高にお願いして勤務してもらっていた。

〈私は五高で門前先生の国語の授業を受けました。知人の北海道大学の風巻教授に作詞を頼んでくれました〉（森一郎先生）。〈門前先生は風巻氏とお知り合いだったのでは・・・〉（塚原末子先生）

《II》



なぜ、校内募集をしたのか？

翌昭和26年6月に校歌の校内募集に取り掛かったということは、①前年度に働きかけた風巻教授が校歌の作詞を断られたのではないか。

当時、風巻教授のもとには北海道の高校20数校から作詞依頼があり、忙殺されていたはずである。戦後の学制改革で、新制の中学校や高等学校も創立に伴い、新しく校歌制定を必要とする状況で、多くの学校が先を競って作詞者・作曲者を求めていた頃であった。

②県内の昭和23年4月に新制高校創立を同じくする普通高校10校の校歌制定状況を調べても、作詞・作曲のいずれかを校内外に募集か学校関係者へ依頼がほとんどで、西高と同じく両方とも外部へ依頼は1校のみである。

《III》

Q なぜ、風巻教授が作詞を受諾したのか？

6〜7月に校内募集で3編を出したものの決定的な賛同が得られず、専門家へ依頼となり、9月には再び風巻教授へ作詞を依頼することを小谷校長は決断されたのではないか。

特にこの年は、春の選抜高校野球大会で準決勝まで進出しながらも校歌がないため、甲子園球場に2回へ旧制瓊浦中学校の校歌が流れた（久保山亮市氏・4回生・中堅手として出場）ことは、教職員や生徒に校歌のない悲哀を味わせることになった。さらに、その年の夏も甲子園に出場する健闘を示したにもかかわらずである。

ここで、前面に出たのが小谷校長と推測される。①小谷校長は東京帝大・文・倫理学科卒業で、文学部では風巻教授の1年先輩という同窓の強みがあったはず。もちろん、②この年3月に西高を離任した天理大学教授の門前先生には小谷校長から改めて風巻教授への作詞依頼の力添えを頼まれたことは推測される。

さらには、③春夏に甲子園を沸かした西高野球の活躍ぶりが、風巻教授の作詞への心をくすぶった

のではないだろうか。折しも、この夏ごろから灰田勝彦が唄う「野球小僧」が全国に広まった。

④その風巻教授は、8月に軽い眼底出血のため、9月にかけて層雲峡にある病院で療養されていたにもかかわらずである。

こうして風巻教授は作詞を受諾し、10月10日に午前中、長崎西高校の歌つくる、12日に「今、長崎の校歌何とか形つけ、中央高に出して、汽車にのります。ほつとしました」と風巻教授は日記と書簡に記載している。

30枚余りの校歌作詞のうち、北海道以外では長崎西高と東京の女学院（のち、校名改称のため校歌は変更）だけで、別に東京新宿の小学校1校に過ぎない。遠く離れた西高の校歌を引き受けられたのはよほどのことがあったと思う。

《IV》

Q なぜ、長谷川良夫教授が作曲を受諾したのか？

作曲者の東京芸術大学の長谷川良夫教授は作詞者風巻教授の5歳年下で、①両者はすでに栃木県師範学校の校歌を作り上げた仲であり、②翌年の昭和22年5月3日には日本国憲法発布記念式典後の帝国劇場での祝賀会で、風巻教授作詞の「偉いなる朝」を長谷川教授

が作曲し、演奏されている。

さらに、③両教授がコンビとなつて制作した校歌は北海道の高校に5校ある。

〈国語を専攻した者なら誰知らぬ者はない国文学者〉（塚野克己先生）の風巻教授から紹介があった〈長谷川先生は「風巻先生の歌詞なら是非に作らせてください」と話された〉（山西（荒木）美佐子先生・3回生）そうだ。

風巻教授も〈自分の歌詞に最も適した最高の曲である〉と長谷川教授の作曲を絶賛されたという。

《V》

Q なぜ、歌詞に校名はなく「自律」があるのか？

今春の東京大入試で西高と同じく6人の合格者を出した札幌西高の校歌は、風巻教授の作詞（作曲は別人）によるもので、2番には〈自律の園に咲きにほへ〉とあり、学校の要望なのか3番の最後には〈西高校〉とある。

しかし、風巻教授が作詞した校歌を調べていくと、①「校名」があるのは3校のみで、校名をつけないのは風巻教授の好みによるものか。2校に「自律の園」、3校に「眸をあげよ」の文言がある。

また、②小谷校長の〈悠揚せままらぬ温容と高い識見のもとで、

<西高校歌制定の経緯>

昭和23(1948) 11.1 長崎東・長崎西が創立

昭和24(1949) 11.1 長崎東が校歌発表

昭和25(1950)

7.25 竹の久保に新校舎完成し、移転完了

12.7 校歌制定委員会を設置

風巻景次郎教授へ作詞依頼 <<Ⅰ>>

昭和26(1951)

4.8 選抜高校野球大会で準決勝進出

1回戦・準々決勝の勝利に壇中校歌を使用

6.13 作詞を校内募集 <<Ⅱ>>

7.5 校内締切 7.7 予選 7.9 3歌詞選出

7.18 作詞・作曲を専門家へ依頼決定

8 全国高校野球選手権大会で1回戦敗退

9.15 風巻景次郎教授へ再び作詞依頼 <<Ⅲ>>

10.10~10.12 風巻景次郎教授が作詞

10.25 長谷川良夫教授へ作曲依頼 <<Ⅳ>>

12.11 校歌練習

12.14 生徒に校歌披露・校歌制定 <<Ⅴ>>

昭和27(1952)

2.25 第4回卒業式で校歌発表

自由と自律を尊重し、学問を愛した(林田光晴先生)という教育信念が込められているのではないだろうか。
 へ校歌も自律と同じで年をとればとるほど良さを感じます。西高の校歌には品格を感じます(田中直英氏・14回生)

いずれにしても、西高校歌「眉秀でたる若人よ」を歌うことのできる卒業生として、門前先生、風巻教授、長谷川教授、そして小谷校長による人間関係から校歌制定をスムーズに進めることができたことは、西高にとって誠に幸運であったと私は思います。

長崎立長崎西高等学校
 (こうして、創立3年4か月後に
 行われた4回生の卒業式において、
 西高の校歌は晴れやかに日の目を
 見る時を迎えたのであります。)

校歌 眉秀でたる若人よ

作詞 風巻 景次郎 (当時北海道大学教授)

作曲 長谷川 良夫 (当時東京芸術大学教授)

校歌は、本校野球部が甲子園に出場したのを期に、昭和26年12月に制定された。作詞者の風巻先生は長谷川先生に作曲を評して、「自分の作詞に最も適した最高の曲である」と絶賛された。詞の中に「西高」の校名がなく、新しい時代の理想と志の高さを感じさせる校歌である。



快活に美しく ♩ = 104

mf

ひとみをあげよ はてとおく

mp

かせかが やかーし おかのう えこ

Poco a Poco Cresc.

ころはきよくりんーとして まゆひいでたるわ こーうどよ じ

りつそのをまもらずや じりつそのをまもらずや

mf

あ あ しんせいの うたごえ に

ff

わがやま やまーよ こだませよ

校歌

眉秀でたる 若人よ

一 眸をあげよ 涯遠く

風かがやかし 丘の上

こころは清く凛として

眉秀でたる 若人よ

※自律の園を まもらずや

ああ新世の 歌声に

わが山々よ こだませよ

二 明るき学園の 窓ひろく

白壁に映る 空青し

眼はひろく 陰翳なく

自由にたてる 創造の

※教智は薫る かんばしく

ああ若々し 学舎に

行く白雲よ ほほ笑めよ

三 入江は深き 新潮に

世界の船の 集いきて

文化の黎明 あらしめし

歴史は暮りず 永遠に

※平和の鐘は 鳴りつづく

ああ美しき 長崎の

夢あたらしく 花咲けよ

(※くり返し)